

そよ風

- 1 ダンスパーティー 2017・生け花教室開催
- 2 平成 28 年度福祉サービス第三者評価結果
- 3 平成 29 年度看護部院内研修について
- 4～5 はばたけ看護師 1 年生
- 6 平成 29 年度日本重症心身障害福祉協会
全国施設協議会に参加して
看護の日のイベント開催を終えて
- 7 My World
- 8 人事異動・編集後記

ダンス パーティー 2017

リハビリテーション科 言語聴覚士 荻原 千恵

今年もやってきました！リハビリテーション科主催のダンスパーティーの季節が。梅雨のジメジメを吹き飛ばすように、最初は“やってみよう”の音楽から始まりました。CMでお馴染みの三太郎に扮した利用者が、踊りながらテニスを披露しました。カルチャークラブの手芸メンバーによるダンスは、猫がじゃれあう様子を表現しました。続いてはサラダグループの皆さんによる、フォークダンスでした。軽快な音楽でパートナーが交替していくところと、カスタネットでの手合わせが印象的でした。風月グループのダンスでは、王子様とお姫様が登場し、まるで舞踏会のような様子でした。フラワーシャワーが場面を盛り上げました。宙組では、趣向を凝らして、カフェで朝食をとって出かける様子をダンスにしました。トーストとコーヒーの香りがたちこめて、皆さんもカフェ気分を味わえたのでしょうか。カルチャークラブの絵画メンバーによるダンスは、それぞれの希望が叶いました。他利用者も招待してペアで踊る人、ドラマ主題歌の歌姫になりきって踊る人、ピコ太郎になって歩行を披露する人…。本当に多様でした。

今年も、CMソングやクラシック、フォークダンス、ドラマの主題歌、流行った歌、とバラエティー豊かな内容でした。来年もどうぞお楽しみに！



生け花 教室開催

リハビリテーション科 作業療法士 柏山 むつ子

今年は6月27日(火)に生け花教室を行いました。例年5月に行っていた生け花教室ですが、今年は6月に実施しました。リハビリテーション科が主催する生け花教室は、今年で13回目となりました。生け花教室が始まった13年前は、利用者も職員も経験が無く、どうすればいいんだろうとまごまごしていましたが、みんなもう慣れたもの！参加された利用者の方々は、会場に入ると普段はなかなか見られない豪華で綺麗なお花の束を見てテンションもあがり、早速それぞれ好みのお花や花器を選んで作業に取りかかっていました。

今年も素敵な作品が出来上がりましたね。甘い香りと綺麗な花に皆さんも存分に癒されてくださいね。



平成 28 年度福祉サービス第三者評価結果

1 評価機関名 特定非営利活動法人 とうめい福祉推進ネット

2 評価結果の概要

(1) 障害児入所支援 (旧重症心身障害児施設) (長期入所)

①特に良いと思う点

- ・ Q C サークル活動などの自主活性化運動を通じて自ら考え行動するチャレンジ精神を育み風通しの良い職場風土が熟成されている。
- ・ 関係職員が連携を密に利用者の心身両面から生活の質 (Q O L) の維持向上に努めている。
- ・ 質の高いサービスや職員の能力向上を実現するために、人材育成には絶えず注力し豊富なメニューを整えて有為な人材を育てている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・ 短期入所を中心にハード面での機器や個室など生活環境の一層の整備工夫が期待される。
- ・ 接遇、虐待防止など常に職員が守るべき事項は全員への意識付け、その徹底への活動を繰り返し継続することが大切と思われる。
- ・ 利用者の療育支援のボランティアのさらなる柔軟な開拓が必要と思われる。

③センターが特に力を入れている取り組み。

- ・ 地域の施設、住民への介護など専門性に富んだ知識技量の普及に努め交流を深めている。
- ・ 利用者の安全を確保するため、各委員会、専任スタッフが状況確認、指導に当たっている。
- ・ Q C サークル活動などを通じて職員が連携して利用者の生活の質の向上に努めている。

(2) 生活介護 (主たる利用者が重症心身障害者) (通所)

①特に良いと思う点

- ・ 美味しく彩り豊かな食事や外食の機会を提供するなど利用者の日々の生活を楽しくする工夫に努めている。
- ・ 医療的ケアを要する利用者が年々増加しており、利用者が安全で安心して通所できるように体制を整備し、健康管理に万全を期している。
- ・ 在宅利用者の支援強化を目指して各部門と連携しながら利用者家族に寄り添った対応に努めている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・ 利用者支援の一環として地域の人々との交流を始め多くの社会性を育む機会を更に増やすことが期待される。
- ・ 職員が安全安心して支援できるようにデイルーム面積の確保、浴室への移動がしやすいレイアウトなどの工夫を望みたい。
- ・ 在宅支援の強化、通所利用率の向上の面からバス送迎回数の増加が求められている。

③センターが特に力を入れている取り組み。

- ・ 僅かな時間をも捻出して活動プログラムを工夫しながら個別の支援に取り組んでいる。
- ・ 理学、作業療法などの専門職員と連携し利用者の運動機能の維持向上に努めている。
- ・ 利用者全員が種々のイベントに参加して楽しめる機会づくりに多くの努力を重ねている。

平成 29 年度看護部院内研修について

看護部の平成 29 年度院内研修を紹介します。センターに入所されている長期利用者の方は、毎年、年齢を重ね医療的ケアが少しずつ複雑になってきています。

また、短期入所の方や医療入院の方も、低年齢となり高度の医療を必要とすることが多くなってきています。このような状況の中で、安全で安心できる療育環境を整備し、質の高い看護・療育の提供ができる職員の育成をめざし、院内教育を企画しています。看護師、保育士、指導員がそれぞれの専門性を活かし、実践を通して成長ができるような内容になっています。

研修名	研修目的	対象		
基礎コース 新任オリエンテーション 基礎コースⅠ	①看護部職員として必要な知識・技術を学び、病棟での業務に活かす ②重症心身障害児者の特徴を理解するとともに、看護（療育）の知識、技術、態度を習得し、安全な看護（療育）が提供できる ③担当職員として助言を受けながら看護（療育）計画に沿って実践できる ④自己の看護（療育）観を明らかにする	1 年次 悉皆		
	基礎コースⅡ	①担当職員として助言を受けながら利用者の看護（療育）過程の展開に責任を持つ ②根拠に基づいた看護（療育）が実践できる ③自己の看護（療育）観を深める	2 年次 悉皆	
	基礎コースⅢ	①担当職員として自立し責任ある行動がとれる ②根拠に基づいた知識技術とともに、個別的看護（療育）の実践ができる ③自己の看護（療育）観を確立する	3 年次 悉皆	
一般コース プリセプター 問題解決 看護療育記録 看護計画Ⅰ 看護計画Ⅱ 在宅支援 倫理 看護・療育研究 家族支援 看取りの看護	専門的知識を学び業務に活かす	職歴 3 年目以降		
		職歴 4 年目以降		
		専門コース 専門コースⅠ 摂食嚥下障害看護・呼吸管理	呼吸管理・摂食嚥下障害看護の指導的役割を果たす	基礎コース看護研修修了者
			専門コースⅡ 療育活動	
		管理コース 主任研修	係長を補佐する者として、課題解決ができる能力を身につける	主任
			係長研修	係長としての役割を理解し、必要な能力を高める

一ヶ月半看護師として働かせていただいた中で、私が最も大切だと感じたことは、”利用者さんをしっかり観察する”ということです。利用者さんは、職員と言葉を交わして意思疎通をすることが難しい方が多いです。しかし、利用者さんは私たち職員に対し、自らの希望や感情、体調の変化などを、何らかのサインとして出してくださることがあります。そのサインとは、言葉だけではなく表情や仕草、全身の状態なども含まれます。これらのサインを逃さずキャッチし、情報を正確に分析し、利用者さんの状態や希望に合わせた適切な関わりを行うことが大切です。そして、利用者さんに合わせた関わりを行うためには、利用者さんの性格や体質といった個性を把握することや、利用者さんの感情や状態が変化した時に出すサインなどを見逃さないようにするための観察力が不可欠だと気づきました。

以上の気づきを通しての今後の目標は、利用者さんの状態を的確に判断できるための観察力を身につけていくことです。そして将来、利用者さんの発信したサインや状態の変化などを正確に読み取り、その状況に適した看護を提供できるような看護師になりたいです。(川村理絵)



名前の色は
イラストは

入職して1か月半が過ぎた頃、新人研修を終え、夕方病棟へ戻りました。すると利用者さんの一人が、車椅子でゆっくりと向かってきて『お帰りなさい』と声をかけてくださる場面がありました。本来ならば、『ただいま』と言うべきだったのでしょうが、思わず嬉しくて『ありがとうございます』と応えてしまいました。それでも利用者さんは、にっこり笑ってくださいました。

利用者さんの中には、視線を向けると顔を反らしてしまう方もいます。しかしそれは、最近見かけるけれど、この人はどんな人？何をやるの？と様々なことを感じているのだと思います。知らない人が近くにいると、誰でも不安な気持ちになります。逆に自分の気持ちを分かってくれ、安心できる人には表情も柔らかくなり、緊張もほぐれていくのではないかと思います。

1か月半、早く利用者さんのことを知り、対応しなくてはと気は焦り、何にも出来ない毎日でした。しかし、利用者さんも私のことを見てくれているんだと感じる出来事でした。これからも正しい知識を持ち、利用者さんとそのご家族の思いを大切に尊重しながら関わっていくこと、また、安心してもらえるような言葉、表情、手技を学んでいきたいと思っています。(猪股香織)



私が重症心身障害児(者)看護に携わろうと決意した動機は、看護学校時代の小児看護学実習で発達遅滞の子どもを受け持ったのがきっかけです。受け持った子どもは2歳半でしたが、発達段階はまだ首が座らなく、寝返りも打てず、立ち上がる事も出来ずにいる状態でした。年齢的には、早ければ少しは話せるのですが、ほぼコミュニケーションを取ることが出来ずにいて、中々うまく関わる事が出来ませんでした。しかし、CDで音楽を流したり、ガラガラを振ると声を出したり笑ったり振り向いてくれる事がわかり、少しずつですが「この子が今、出来ている部分はなんだろう」と長所の部分に目を向けるようになりました。この小児看護学実習の経験から、今までの他の領域実習は「相手の出来ない部分、短所の部分」に目が行っている自分がある事に気づきました。また、普段人と接する時、日頃から「相手が何をしてくれたら喜んでくれるのか」を人一倍強く考える癖も持っているため、療育看護に活かせるのではないかと思います。(星野智彦)



病棟に配属されて約 2 ヶ月、看護師としても、社会人としても、1 年目。右も左も分からないので、真っ直ぐ目の前の道を走り続けて来ました。振り返れば、反省ばかりの日々でしたが、少しずつ利用者さんのことが分かってきて、なんとなく通じ合えた気がすることもあり、嬉しいことも沢山ありました。しかし、利用者さんの言葉にならない訴えを汲み取ることの難しさに直面することも、命を預かっていることの重さをひしひしと感ずることもあり、身が引き締まる思いもしています。

そんな私の今の目標は、目の前の利用者さんのことをきちんと見られるようになることです。今はまだ、呼吸音の聴取ですら先輩と一緒に確認して頂いているのが現状です。なので、まずは目の前の利用者さんに関わることを確実にできるようになること。その中で自分の非力さを痛感したり、“自分本位なんじゃないか”、“自分がやられたら嫌かもしれない…”と、反省したりしては、更に努力をする。そういうことの積み重ねから始めていきたいと思っています。

この先、立ち止まったり、引き返したり、遠回りも沢山すると思いますが、これからも目の前の道を走り抜けて行きます。(廣井真美)



マイカラー、お気に入りのものです。



たけ!!

師 1 年生

私は、父の入院をきっかけに看護師という職業を目指すようになりました。学生時代、この東大和療育センターの方が学校に来て、重症心身障害児(者)についての説明をしてくださる機会があり、そこで初めて療育に興味を持ちました。実習を繰り返す中で、患者さんに寄り添い、生活を支える看護がしたいと考えていたこともあり、重症心身障害児(者)の看護に携わろうと決意しました。

実際に働き始めて、利用者さんとのコミュニケーション方法や、ケアの個別性の高さに難しさややりがいを感じています。入職当時は、利用者さんそれぞれの意思表示の方法があることに驚きました。現在は日々の業務を行うことに精一杯になっていますが、少しずつ利用者さんとコミュニケーションがとれるようになってきたと感じています。早く利用者さんそれぞれの特徴を覚えて、利用者さんの個別性を踏まえた看護を提供できるよう、観察力やアセスメント力を磨いていきたいと思っています。(小宮優希)

働き始めてまもない今の思いを語ってもらいました。なぜ、重症心身障害児(者)看護を志したのか…その原点だけは、いつまでも忘れずに…。



この春から重症心身障害児(者)の看護に携わらせてもらうこととなり、毎日が学びと発見、驚きの連続です。働き始めて沢山感動したことがありますが、その中でもとても印象深いのは、先輩方が長期利用者様のちょっとした様子の変化から体の不調を察知し、医師に報告連絡相談したことで早期発見につながった出来事でした。利用者様は自分から気持ちを伝える手段の少ない方も多く、看護師は常に観察し、その変化を敏感に感じ取らなくてはいけないと言葉では分かっている、実際にその些細な変化のサインに気付くためには、日頃から注意深く意識しながら接し、その人の普段の状態はどうかをしっかりと把握する必要があります。その上で、看護師として状態をアセスメントし、適切な対応を取ることが、利用者様の生活に寄り添う看護の形だと改めて感じ、感動しました。

今はまだ自身の拙さに不安になることもありますが、一步一步一生懸命に取り組み、先輩方の様に利用者様の生活の支えになれる看護師に成長していきたいと思っています。(藤田 将)



平成 29 年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会に参加して

事務長 獅子野 秀美

5月18日(木)から二日間、全国の重症心身障害児者施設の代表者が北海道旭川市に集い、表記の会が催されました。当センターからの参加者は、柳瀬院長、桑原看護部長、私の3人です。

初日は、当協会の木実谷理事長が、児者一貫支援の前提条件である「成人の入所者に相応しい日中活動」を実現するため、協会内に療養介護特別委員会を設置した旨報告した後、厚生労働省の小島障害児・発達障害者支援室長補佐から、最新の「障害児支援施策の動向」に係る行政説明が行われました。

続いて、北海道療育園の岡田理事長による「特別講演」では、①我が国の重症児福祉は、小林提樹先生が昭和10年慶應義塾大学を卒業と同時に同病院の障害児外来に係わったことに始まる。先生の足跡の一つでも欠けていたら、今日の重症児施策は存在しない。②「知的障害」には医学的な側面の外に、「哲学的・社会的」な側面があるが、大切な後者についての専門家が、現在の我が国にはいない等、長年の実践と研究とによって裏付けされた、含蓄の深いお話を伺うことができました。

シンポジウム「入所施設のこれからを考える」では、ベルデさかいの児玉センター長が、療養介護とは個々の入所者を中心にしてその方の人生を尊重していく活動の積み重ねであるとの基調講演を行った後、むつみの家の福田施設長、名護療育医療センターの泉川施設長、心身障害児総合医療センターの北住所長、東部療育センターの岩崎副院長、フェニックスの船戸施設長の5人のシンポジストが、意欲的な報告をされました。

二日目は、医療、福祉、学術、人材育成・研修及び医療事故調査制度の各委員会から報告を受け、活発な協議が行われました。とりわけ「短期入所」については、国における事業の位置づけが福祉施策の建前のため、実施しても請求できない項目が多いが、順次診療報酬に含めるよう求めていこう、との意見で一致しました。医療型短期入所は真正面から入院基本料の算定を国に求めるべきである、との強い主張もありました。

収入が東京都に帰属し、施設運営のための支出費用は別途都から措置される、という当センターの特殊事情から、利用者支援の「コスト」について日常の意識が希薄なことは、私たち職員の弱点であると思います。都民の税金によって当センターの運営が支えられているという現実を改めて認識のうえ、既に施設入所している人はもちろんのこと、地域でご家族と暮らしておられる多くの重症児者のために、今以上の力で日々の仕事をしていきたいとの決意を深め、帰宅の途につきました。



「看護の日のイベントの開催を終えて」

看護部 看護科 研修担当看護師長 濱野 正幸

「看護の心」を伝え、センターをもっと身近に感じてもらえるようにと今回、2回目の「看護の日」イベントを2017年5月12日(金)10:00～12:00に開催致しました。

看護科主任中心の10人で去年よりも更に良いものを出し合い、10時から12時の2時間で企画しました。当日は、朝から晴天に恵まれてイベント日和。1階エントランスホールで、測定コーナー、手洗い体験コーナー、お口と健康コーナーの3箇所に別れてスタンバイ。昨年同様、多くの方々が参加してくださいました。「血圧が気になっていたの・・・」「手の洗い方を実際に教われる機会なんて普段ないでしょ」「歯の本数は知らなかったので勉強になった」など、沢山の言葉をいただきました。健康管理の大切さを考えるきっかけ作りになれば幸いです。参加された皆さんの笑顔と笑い声、私達の説明に熱心に耳を傾けてくださる姿に支えられ、利用者・家族・外来受診者やその家族・職員など参加者は、合計68人の大イベントになりました。多くの皆様のご協力により、無事に実施する事ができました。ご協力頂き感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

久しぶりに、よい映画を見た。『シーモアさんと、大人のための人生入門』 タイトルからは、どんな内容なのか想像ができなかった。柔和な微笑みをたたえた 84 歳のピアニストが、音の響きを慈しみながらピアノを弾いていた。彼は、50 歳の時に華やかなステージ生活に幕を降ろし、今はピアノを弾くことと教えることに集中している。生活は極めて簡素で、一人で何でもする。彼の柔らかな口調の英語が、とても心地良かった。

教える言葉は、シンプルで選び抜かれている。若者が、その言葉を全身で受け止めて演奏をする。シーモアさんは「あなたの演奏は、輝きを増した。そして、あなたも輝いている。」と、音楽と若者の存在を心から喜ぶ。若者は、驚いたようにはにかむ。大人になっていくこととは、周りの人を輝かせられるようになることなのかもしれない。

私の大人の人生入門は、まだ始まったばかり。いくつになっても、学ぶことがあるのは良いものです。

(西條 晴美)



アフリカ ザンベジ川

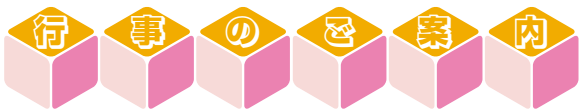


科学技術の進歩は目覚しく、自動車の自動運転、小型ロケットの打ち上げ、人型ロボットのニュースなどを日々テレビで見聞きます。バーチャル・リアリティー (VR) もそのひとつで、コンピューターによって創り出された世界を実際の感覚を通して体感する技術、およびその世界のことを言うそうです。

私はまだ体験したことがないのでよく分かりませんが、VRの装置を付け、様々な疑似体験ができるようです。装置の開発や体験できるソフトの開発が待たれますが、この技術を使えば利用者の皆さんにも、あのアイドルグループのライブステージと一緒に歌ったり、ハワイの海でひと泳ぎしたり、なんてことも体験してもらえるようになるかもしれません。



左の写真は、我が家にある桜の盆栽ですが、VRの装置を使えば、きっと右の写真のように満開になるはず……。 「花咲か爺さん」もびっくりです。10年後の療育活動では、きっと色々なことができるようになっていっているのでしょうね。皆さんなら、何を体験しますか。
(森 謙二)



平成 29 年度の大行事は、以下の日程で実施します。「秋祭り」は、『そよ風』第 88 号(4 月 30 日発行)で 10 月 14 日(土)(予定)と案内しておりましたが、仮設棟建設工事の関係で 9 月 9 日(土)に日程を変更しています。例年より 1 か月早い時期の開催で残暑が心配されますが、暑さ対策を検討しながら企画・準備を進めておりますので、楽しみにお待ちしております。また、日程につきましてはお間違えのないよう訂正の程よろしくお願いたします。

「クリスマス会」、「成人式」におきましても、利用者の皆様に楽しんでいただけますよう準備してまいります。今年度も多数の皆様のご参加をお待ちしております。

【センター行事】

秋祭り

9 月 9 日(土)

クリスマス会

12 月 6 日(水) 第 4 病棟

12 月 8 日(金) 第 3 病棟

12 月 12 日(火) 第 1 病棟

12 月 14 日(木) 第 2 病棟

成人式

1 月 19 日(金) 通 所



散歩や絵本の読み聞かせなど日常の療育活動、行事、リネン交換、おもちゃ図書館でのおもちゃの貸し出し等のボランティアを募集しています。ボランティア活動に興味・関心のある方、特技をお持ちの方、お待ちしております。看護部 生活支援科長 森までご連絡ください。



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風第 89 号

編 集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成 29 年 7 月 15 日

発 行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10

☎ 042-567-0222

印 刷 有限会社 はじめ印刷

☎ 042-560-3031

編集後記

今回のそよ風はいかがだったでしょうか。梅雨が明けると暑い夏です。皆さん体調を整え暑い夏を乗り切りましょう!

今年度も 1 ページ 1 ページ心が込められた「そよ風」を是非ご覧下さい。(S・O)

皆さん、今年の夏休みの計画はもうお決まりですか? 浴衣で夏祭り、屋台のソースの香りに誘われてつつい買っちゃうんですね…ビール片手に花火を見上げる、なーんていうのも夏を感じられます。いつか長岡祭り大花火大会に行ってみたいな。(Y・H)